

みんなで考えよう

# 市 町 村 合 併

シリーズ

今回は、昨年12月に実施したアンケート調査の結果と、2月3日に設置した「佐世保市・世知原町合併協議会」についてお知らせします。

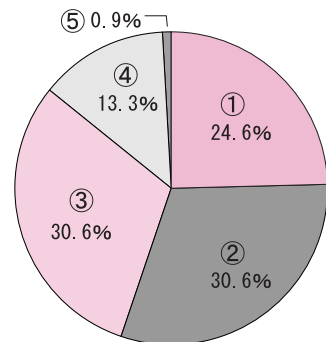
## 市町村合併に関する住民アンケートを実施しました

昨年12月、市内に居住する20歳以上の人を、無作為に1万人抽出して実施しました。(有効回答数2,713、有効回答率27.1%) 今回のアンケートでは、合併についての皆さんのご意見など、貴重な資料を得ることができました。アンケートの結果は、今後の合併協議やまちづくり計画、広報の方法など、合併の取り組みに反映していきたいと思えます。

### 主なアンケート調査結果

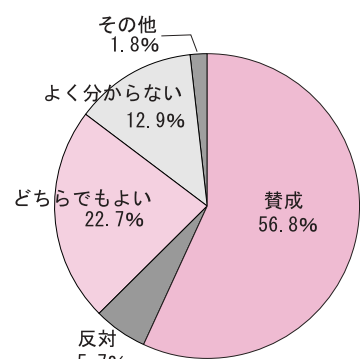
- 問 佐世保市が市町村合併を検討していることをご存じでしたか
- 答 はい(84.7%)  
いいえ(15.3%)
- 問 市町村合併を身近な問題と考えますか
- 答 はい(66.5%)  
いいえ(33.5%)
- 問 合併を身近な問題と考える理由は？(複数回答)

問 (左のグラフ参照)  
市町村合併が全国的に話題になっているから  
市町村合併が佐世保市の将来にとって重要な問題と思うから  
市町村合併が自分たちの将来の生活に影響があると思うから  
佐世保市と合併を希望する町があると聞いているから  
その他



合併を身近な問題と考える理由

問 近隣町である世知原町、吉井町との合併についてどう思いますか  
答 (左のグラフ)



世知原町、吉井町との合併について

- 問 市町村合併にどのような効果を期待しますか(複数回答)
- 答 (回答が多い順に主なもの)
- 議員や三役(町長、助役、収入役)などの人員を削減し、経費が節減できる(七百六十人)
  - 地域の活力の基礎となる人口や豊かな自然、特産品などが増加する(六百四十七人)
  - 市町村合併を支援する国・県の財政支援を、将来に向けたまちづくり活用に活用できる(四百一人)
- 問 地理的に離れすぎていて、一つの市としてやっていくには無理がある(44.4%)
- 難しい課題はあっても、合併に前向きに取り組むべきである(26.1%)
- 離島であるため効率化が十分にできなかったり、交通費など新たな支出が増えたりして合併の目的が達成できない(19.2%)
- 医師の確保、過疎化の問題など大きな行政課題を抱えることで本土の行政に影響を及ぼす(6.8%)
- その他(3.5%)

## 世知原町との合併に向け

### 本格的な協議を進めます

佐世保市・世知原町合併協議会を設置しました



合併協議会事務所開所式で市役所に看板を設置する佐世保市長と世知原町長

### 合併協議会設置の経緯

【世知原町住民の設置請求】  
本市と世知原町は昨年4月から、周辺地域も含めた個性豊かで活力のある地域を創造していくために、市町村合併について調査、検討を進めてきました。

その中で、本市との合併を望む世知原町の住民の皆さんによって、署名活動(住民発議)が行われ、昨年11月13日、合併特例法に基づく合併協議会(法定合併協議会)の設置が請求されました。

【本市の考え方】  
本市は次の理由で、世知原町との合併の話し合いをさらに進めようと考え、1月17日の臨時市議会で承認を得て、2月3日、合併協議会を設置しました。

本市と世知原町は、通勤、通学、医療、買い物など住民の日常生活の多くの面で深いつながりがある。このような両市町が今後の少子高齢社会の進展に対応できるまちづくりを一体となつて進めることが、広域的な生活経済圏を持つ本市にとつてもプラスになる。

佐世保・吉井・世知原任意合併協議会で、調査や協議を行った結果、行政の効率化を図っていくことや、国・県の合併支援策を有効に活用することにより、長期的にみると財政基盤の強化、市民サービスの向上を図ることができると見られる。住民アンケートの調査結果で、世知原町との合併について、賛成が半数以上あった。

### 法定合併協議会とは？

佐世保市・世知原町合併協議会は、法に基づく合併協議会で、合併に向けた本格的な協議の場となります。

より多くの皆さんの意見を反映させるため、協議会の委員は佐世保市長、世知原町長、各3人の議

会代表のほか、地域の代表者8人、広域的な視点を持つ学識経験者5人が構成されています。

市ホームページアドレス  
www.city.seisei.nagasaki.jp  
お尋ね 市役所市町村合併事務局 (☎241111)

## 水と緑の自然豊かな高原の町

### 世 知 原 町



大藤河川公園(世知原町)

世知原町は佐世保市の北に隣接し、周囲を山々に囲まれた高原の町です。県北最高峰の国見山から県下最長流の佐々川が町の中央部を東西に流れ、水と緑の自然が豊かです。

昭和15年に町制施行。昭和20～40年代の石炭産業の盛衰は、町の歴史に大きな影響を与えました。

人口は4,243人(平成12年10月1日国勢調査)。産業は、県下2番目の生産量を誇るお茶をはじめ、農業が盛んです。

また、町内外から多くの人々が参加する「じげもん市」「せちばるロードレース」など、1年を通してさまざまなイベントが開催されます。